



「アマチュアのための太陽系天文学 ～あなたも天文学者になれる～」

渡部潤一監修

シュプリンガー・フェアラーク東京発行

解説書

お薦め度

☆☆☆★★

天文学はアマチュアにも活躍の場が開かれている学問分野のひとつである。それは、本書にも述べられているように、プロの観測のパワーはごく狭い空の領域、少数の天体、限られた瞬間に集中しているのに対し、宇宙の観測対象は空間的にも、時間的にも、また多様性においても幅広く、プロだけではとうていカバーしきれないからである。この様な状況の中で本書は、天文学にはアマチュアが研究を通じてその独自性を発揮する場は十分にあり、「学問の上では研究者はプロもアマも対等であり、ちょっとした技術や勉強の量が差になっているだけである」として、大いにアマチュアを鼓舞している。ノウハウと適切なガイダンスがないばかりに、埋もれがちな観測に日の目を見させ、ともすると高く感じやすい研究へのハードルを低くしようとする本書の姿勢は、大変好感が持てる。

自分の余暇の時間をつぎ込んででも惜しくない趣味があり、楽しみがあり、その楽しみが研究につながる。楽しみながら研究が出来る。これは、とても素晴らしいことである。その姿勢は、巨大プロジェクトに埋もれそうになったり、初心を忘れて研究のための研究をしてしまいがちなプロにとっても学ぶところ大である。しかし、あからさまに「楽しみ」とか「喜び、感動」なんて書いてなくても、行間からにじみ出てくるはずの楽しさが、本書からはあまり感じられないような気がする。書き下ろしのせいで、肩に力が入りすぎたのか、この月報の解説記事でも時々みられるような、楽しんでやっている人独特の一気に読ませるような迫力が、あまり伝わってこなかったのは、とても残念である。

また、これも複数著者の書き下ろしのせいかもしれないが、どの程度の読者を想定しているかも不明確な気がする。まえがきには、ある程度の経験を積んだアマチュアを想定しており、興味のない項目は読みとばしてもさしつかえないとあるものの、章ごと（特に前半と後半）のレベルに統一性がなく、それゆえいたずらに読者を怖じ気づけさせてしまうとしたら、本書の目的と相容れなくなってしまう（私はちょっと怖じ気づいてしまった）。

かように、いくらか気になるところもあるものの、試みとしては十分に評価したい。このような視点でノウハウを教えてくれる本はなかなか見いだせないだけに、希少な一冊である。研究を志すアマチュアのみならず、これから天文学のプロを目指す学生にも良い入門書と言えるだろう。また、物理系の雑誌は読むが、天文雑誌には目も通したことがないような、物理学科出身のプロにも、同じ天文学会を支えているアマチュアの活動の一端が垣間みられるという点で、お薦めしたい。

最後に老婆心ながら一言。趣味の楽しみ方は人それぞれ千差万別であり、魚釣りを例にとっても分かるように、大物を釣ったり、高価な道具を揃えたりすることが立派なことではない。天文の楽しみ方も同じことで、研究するから立派なわけではない。学問的に立派な（その分野に貢献する）研究をしようと心がけることはプロ、アマを問わず大切なことだが、立派なアマチュアになるために研究を始めようとするなら、それは著者らも望まぬことであろう。

野田 学（名古屋科学館）